



No. sma0018

(2016.2.4)

サントリー美術館
「原安三郎コレクション 広重ビビッド」展 開催

会 期：2016年4月29日（金・祝）～6月12日（日）



名所江戸百景 亀戸梅屋舗
歌川広重 大判錦絵 安政4年（1857）
原安三郎コレクション



六十余州名所図会 阿波 鳴門の風波
歌川広重 大判錦絵 安政2年（1855）
原安三郎コレクション

サントリー美術館（東京・六本木／館長 鳥井信吾）は、2016年4月29日（金・祝）から6月12日（日）まで、「原安三郎コレクション 広重ビビッド」展を開催します。

日本財界の重鎮として活躍した日本化薬株式会社元会長・原安三郎氏（1884～1982）の蒐集した浮世絵コレクションのうち、歌川広重（1797～1858）晩年の代表作である〈名所江戸百景〉、および〈六十余州名所図会〉を中心に紹介いたします。前者は江戸名所、後者は五畿七道の68ヶ国の名所を題材としており、とくに前者は当時からたいへんな人気を博していました。需要の増加とともに、摺りの手数を簡略化した「後摺」が複数制作されるようになりますが、本コレクションのものは、貴重な「初摺」のなかでもとくに早い時期のもので、国内にも数セットしか存在しません。初摺の行程では、広重と摺師が一体となって色彩や

摺りを検討しながら進めており、広重の意思が隅々まで込められています。また、版木の線が摩滅せずシャープなため、美しい彫りの線が確認できます。つまり本展では、広重が表現しようとした形や、生涯を通じて追い求めた色彩および彫摺技法の粋を見ることができます。さらに、保存状態が極めて優れているため、制作当初の「試し摺」に近い初摺の姿が鑑賞できる、またとないチャンスです。このふたつの揃^{そろいもの}物を全点公開するのは、本展が初めてのこととなります。開催に際し、〈名所江戸百景〉ならびに〈六十余州名所図会〉について、描かれた場所の現地取材を行ないました。広重の作品と現在の写真を、展示および図録で比較していただくことができるのも本展ならではの点です。〈名所江戸百景〉に関しては、江戸在住の広重が実際に足を運び、写生したものが基になっていると考えられています。一方、〈六十余州名所図会〉については、その大半が典拠資料を参考にしていますが、画面構成に広重の心象風景による表現を加え、オリジナリティーを出しています。また江戸や旅先で実景を目にした体験が反映されていると思われる描写もあり、シリーズのなかでも一際優れた作品となっています。あわせて、本展では葛飾北斎^{かつしかほくさい}（1760～1849）や歌川国芳^{うたがわくによし}（1797～1861）の名所絵なども展示いたします。とくに、現存数の少ない北斎の〈千絵の海^{ちえのうみ}〉が10図すべて揃うのも見どころのひとつです。国内外でも稀に見る名品の数々をぜひお楽しみください。

《 展示構成 》

第1章 初公開 歌川広重〈六十余州名所図会〉



六十余州名所図会 美作 山伏谷
歌川広重 大判錦絵 嘉永6年(1853)
原安三郎コレクション

〈六十余州名所図会〉は、広重が晩年に手掛けた揃物で、五畿七道、すなわち五畿内、東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道の68ヶ国の名所を描いています。武蔵の国とは別に江戸の図があり、この69図に目録を加えた全70図で構成されます。板元の越村屋平助、通称越平が、嘉永6年(1853)7月から安政3年(1856)5月にかけて出版し、同年9月に梅素亭玄魚(1817~1880)による目録が作成されました。

題材となる場所が全国各地のため、広重は先行する多くの地誌・絵本類を参考にしています。『都名所図会』『摂津名所図会』『東海道名所図会』『北斎漫画』など、その参照先は多岐に渡りますが、とくに大きな典拠となったのが『山水奇観』です。同書は淵上旭江(1753~1816)が23年の歳月をかけて実際に諸国を歩き、風景を写生したものが基になっており、实景に取材した正確な描写が特徴です。広重はこれらの図を換骨奪胎しながら、臨場感溢れる画面に仕上げています。

そして、本シリーズでは彫りと摺りの技術が効果的に駆使されています。たとえば、美しいグラデーションを生み出す「拭きぼかし」は、海面や川面、空の表現に深みを与えています。とくに「拭きぼかし」の一種、「あてなしぼかし」は摺師の腕が問われる技術のひとつで、広重作品のなかでは本シリーズから本格的に使われ始めました。《阿波 鳴門の風波》は本コレクションのなかでもとりわけ重要な1図で、渦潮の流れに沿って藍色のぼかしが施されています。出身地である徳島の図に、原氏が格別な思いを抱いていたことは想像に難くありません。また、藍玉を扱う商家に生まれた原氏が、浮世絵の藍色に対する鋭敏な色彩感覚をもっていたことがうかがえます。

本コレクションの〈六十余州名所図会〉はこれまで展覧会への出品歴が無く、本展が初公開となります。まるで摺りたてのような美しさをご鑑賞ください。

【おもな出品作品】

六十余州名所図会	出雲 大社 ほとほとの図	嘉永6年(1853)
六十余州名所図会	美作 山伏谷	嘉永6年(1853)
六十余州名所図会	備後 阿武門 観音堂	嘉永6年(1853)
六十余州名所図会	阿波 鳴門の風波	安政2年(1855)
六十余州名所図会	薩摩 坊ノ浦 双剣石	安政3年(1856)

※以上すべて歌川広重、大判錦絵、原安三郎コレクション

第2章 最晩年の傑作 歌川広重〈名所江戸百景〉



名所江戸百景 大はしあたけの夕立
歌川広重 大判錦絵 安政4年(1857)
原安三郎コレクション



名所江戸百景 深川萬年橋
歌川広重 大判錦絵 安政4年(1857)
原安三郎コレクション



名所江戸百景 王子装束ゑの木 大晦日の狐火
歌川広重 大判錦絵 安政4年(1857)
原安三郎コレクション

〈名所江戸百景〉は、最晩年の広重が取り組んだ名所絵の集大成であり、江戸市中および郊外の名所を主題としています。板元は魚屋栄吉、通称魚栄で、安政3年(1856)2月から同5年(1858)10月までの間に「広重」落款の作品118図が刊行されました。初代広重没後の翌6年(1859)4月には二代広重によって《赤坂桐畑雨中夕けい》1図が追加され、この119図と梅素亭玄魚による目録1図を合わせ、計120図で大揃いとされます。《赤坂桐畑雨中夕けい》のほかに、広重の没した安政5年9月以降の改印、すなわち出版許可の検閲印がある3図について、二代広重の代作である可能性が指摘されています。

シリーズの大きな特徴とされるのが、近景をクローズアップし、遠景を小さく描き込む大胆な構図です。年次順に見ていくと、最初は俯瞰図が多く、安政3年7月頃から、この極端な遠近法を利用した作品が増えていきました。また初摺では、布を紙に押し付けて凹凸をこすり出す「布目摺り」や「あてなしぼかし」など、高度な摺りの技術が多用されている点も注目されます。〈名所江戸百景〉は海外にまで影響を与えており、《大はしあたけの夕立》と《亀戸梅屋舗》を模写したゴッホの油彩画が残されています。

玄魚の目録では作品を春夏秋冬の四季に分類しており、従来はこの配列に沿って展示・掲載を行なうのが一般的でした。しかし、目録は広重没後の編成であり、描かれた季節と分類がずれている箇所も散見されます。また、玄魚の配列に従うと、改印の年月に一貫性が無くなるため、当初の広重の意図を反映しているかどうかについては疑問視されています。そこで本章では、作品を地域ごとに分け、実際に江戸名所を歩いてめぐっているような配列にいたしました。広重の目を通して大江戸観光を追体験していただければ幸いです。

【おもな出品作品】

名所江戸百景	大はしあたけの夕立	安政4年(1857)
名所江戸百景	亀戸梅屋舗	安政4年(1857)
名所江戸百景	亀戸天神境内 <small>かめいどてんじんけいだい</small>	安政3年(1856)
名所江戸百景	深川萬年橋 <small>ふかがわまんねんぼし</small>	安政4年(1857)
名所江戸百景	王子装束糸の木 大晦日の狐火 <small>おうじしろうぞく き おおみそか きつねび</small>	安政4年(1857)

※以上すべて歌川広重、大判錦絵、原安三郎コレクション

第3章 幻のシリーズ 葛飾北斎〈千絵の海〉



千絵の海 五島鯨突

葛飾北斎 中判錦絵 天保3年(1832)頃
原安三郎コレクション

広重が風景版画のトップに登りつめる前、このジャンルで不動の人気を得ていたのが葛飾北斎でした。〈千絵の海〉は日本各地の水辺の景色を描いた揃物で、漁労と水の造形に焦点が当てられています。大判よりも一回り小さい中判錦絵であり、現存数は多くありませんが、その芸術性が高く評価されています。〈富嶽三十六景〉の成功を受けて、相次いで刊行されたと考えられているシリーズで、題名の〈千絵の海〉は、智慧の深さを海にたとえる「智慧の海」の言葉遊びになっています。《宮戸川長繩》《下総登戸》《総州銚子》《相州浦賀》《総州利根川》《絹川はちふせ》《五島鯨突》《甲州火振》《蚊針流》《待ち網》の計10図が確認されており、《上総浦》《品川》の校合摺2図、および版下絵が残されています。残存例が少ないこともあり、10図揃っている所蔵先はほとんどありません。本章では、この貴重な10図を全て展示いたします。

【おもな出品作品】

千絵の海	総州銚子	天保3年(1832)頃
千絵の海	五島鯨突	天保3年(1832)頃
千絵の海	甲州火振	天保3年(1832)頃

※以上すべて葛飾北斎、中判錦絵、原安三郎コレクション

第4章 名所絵の名品——葛飾北斎、歌川国芳とともに



富嶽三十六景 凱風快晴
葛飾北斎 大判錦絵 文政末～天保初期 (1829～32)
原安三郎コレクション



近江の国の勇婦お兼
歌川国芳 大判錦絵 天保2～3年 (1831～32) 頃
原安三郎コレクション

広重は生涯を通じて、多くの名所絵の傑作を生み出しました。〈東海道五拾三次之内〉^{とうかいどうごじゅうさんつぎのうち}は30代の広重が筆を執った出世作で、これ以後、風景版画の名手としての地位を確立していくこととなります。また、大判三枚続の大パノラマ画面に、雪の木曾路、月の金沢八景、花に見立てた阿波鳴門の渦潮を俯瞰的に描いた《木曾路之山川》^{きそじのさんせん}《武陽金沢八勝夜景》^{ぶようかなざわはっけいやけい}《阿波鳴門之風景》^{あわなるとのふうけい}は、晩年期にふさわしいダイナミックな「雪月花」の連作になっています。そして晩年の広重は、肉筆画の世界でも優れた能力を発揮しました。

さらに本章では、葛飾北斎と歌川国芳の揃物を中心に、選りすぐった名品をご紹介します。70代の北斎による代表作〈富嶽三十六景〉、実在および空想の橋を主題とした〈諸国名橋奇覧〉^{しよこくめいきょうきらん}、諸国の名瀑を廻る〈諸国瀧廻り〉^{しよこくたきめぐ}、そして広重と同じ年に生まれた国芳による、江戸名所を主題とした〈東都〉^{とうと}〈東都名所〉^{とうとめいしよ}のシリーズ、《近江の国の勇婦お兼》など、江戸後期を彩った浮世絵師たちの競演をご覧ください。

【おもな出品作品】

東海道五拾三次之内	蒲原 夜之雪	歌川広重	大判錦絵	天保4年 (1833) 頃
阿波鳴門之風景		歌川広重	大判錦絵三枚続	安政4年 (1857)
雪月花		歌川広重	絹本三幅対	嘉永2～3年 (1849～50)
富嶽三十六景	凱風快晴	葛飾北斎	大判錦絵	文政末～天保初期 (1829～32)
諸国名橋奇覧	かめみど天神たいこぼし	葛飾北斎	大判錦絵	天保2年 (1831) 頃
諸国瀧廻り	木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧	葛飾北斎	大判錦絵	天保4年 (1833) 頃
東都	首尾の松之図	歌川国芳	大判錦絵	天保2～3年 (1831～32) 頃
近江の国の勇婦お兼		歌川国芳	大判錦絵	天保2～3年 (1831～32) 頃
東都名所	新吉原	歌川国芳	大判錦絵	天保3～4年 (1832～33) 頃

※以上すべて原安三郎コレクション

【本展における展覧会関連プログラム】

◎記念講演会「広重と旅」

講 師：市川信也 氏（那珂川町馬頭広重美術館館長）

日 時：5月15日（日）14時～15時30分

会 場：6階ホール 定員：100名 対象：一般

聴講料：700円（別途要入館料） 応募締切：4月24日（日）

◎記念落語会「いくじなし広重」

出 演：柳家さん生 氏（落語家）

日 時：5月8日（日）14時～15時30分

会 場：6階ホール 定員：80名 対象：一般

聴講料：2,000円（別途要入館料） 応募締切：4月17日（日）

「原安三郎コレクション 広重ビビッド」展 開催

▼会 期：2016年4月29日（金・祝）～6月12日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行ないます

▼主 催：サントリー美術館、TBS、朝日新聞社

▼特別協賛：日本化薬

▼協 賛：三井不動産、サントリーホールディングス

▼後 援：（公財）アダチ伝統木版画技術保存財団

▼会 場：サントリー美術館

港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

<最寄り駅> 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土、および5月2日（月）～4日（水・祝）は20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※shop×cafeは会期中無休

▼休 館 日：火曜日（5月3日、6月7日は開館）、

▼入 館 料：一般1,300円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

※20名様以上の団体は100円割引

▼前 売：一般1,100円、大学・高校生800円

サントリー美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、

イープラスにて取扱（各種プレイガイドは一般のみ販売）

※前売券の販売は2月24日（水）から4月28日（木）まで

※サントリー美術館受付での販売は2月24日（水）から4月17日（日）まで

▼割引：

- きもの割：きものでの来館で100円割引
 - HP割：ホームページ限定割引券提示で100円割引
 - 携帯割：携帯サイトの割引券画面提示で100円割引
 - あとり割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
- ※割引の併用はできません

▼点茶席（お抹茶と季節のお菓子）

1日限定50名（当日先着順） 1,000円（別途要入館料）

6階茶室「玄鳥庵」にて

日 時：5月5日（木・祝）、19日（木）、6月2日（木）、9日（木）

11時30分～17時30分（入室は17時まで）

13時、14時、15時にはお点前があります。

※点茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、お一人様2枚まで）

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼ホームページ：<http://suntory.jp/SMA/>

▽次回展覧会

「オルセー美術館共同企画 生誕170周年記念 エミール・ガレ」（仮称）

2016年6月29日（水）～8月28日（日）

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕池田、〔広報〕羽鳥

TEL：03-3479-8604 FAX：03-3479-8644

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2月8日（月）から http://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以 上